

『子どもへ送る魔法の言葉探し』(仮)

佐藤 広樹

<子どものやる気の引き出し方>

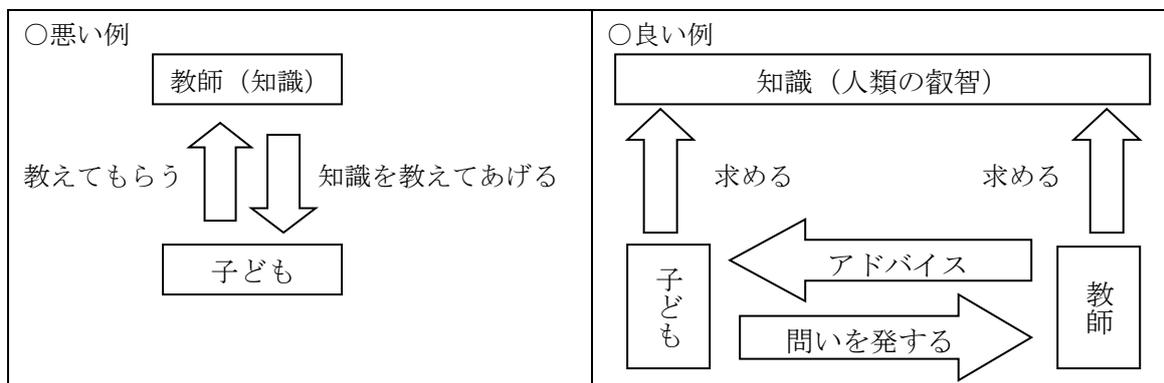
- ① オープンポジション…手足は組まず、開いた状態で会話をする。
- ② リフレーミング…具体的な言葉で発想の枠組み、視点自体を変える。

例. モチベーションが保てない子どもに対して

「下がっているんじゃない。今は休憩中なんだ。」

※休憩が次に向かうために必要であるという考え方に転換する。

<教師と子どもの信頼関係>



※初対面の時に、子どもの良いところを必ず5つは探す。その中でも1番良いところを言葉に出してほめる。

<成長の3か条>

- ① メンタル…自分が成功することを「知っている」→口に続ける！！
- ② 目標…「学習性無力感 (何をやってもダメ)」から、「自分はできる」「世の中楽しいこともある」と思わせるような談話や体験を通して、「自己効力感」を持てるようにする。
- ③ 計画…「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」

※子どもの性格や性質、そして何より『習慣』を把握してあげる。

何事もやってみて上手くやれないうちは、なかなかやる気が出ないもの。小さな「できる」「できた」体験を積み重ね、次第に上達してくると、そこで初めて「もっとやりたい」「極めたい」となって、そこで初めてやる気が出る。

参考資料：めざましテレビココ調、

学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話 (文庫特別版) /坪田信貴著